

事務事業名		教育魅力化推進事業		所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育推進室	
総合計画 画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>		所属G	キャリア教育推進G	課長名	飛田 博志	
	施策名	(27)学校教育の充実		担当者名	福島 勇樹	電話番号	0854-40-1073 (内線) 2242	
	目的 対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。				
	基本事業名	(082)地域力を活かした教育の充実		予算科目	会計	款	大事業	大事業名
目的 対象	児童・生徒	意図	地域力を活かして学ぶ。				項目	中事業
					0:5:1:0:2:9		教育魅力化推進事業	

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (28 年度 ~ 32 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・教育魅力化推進会議を設置し、雲南市教育魅力化構想を策定し、特色ある教育施策に反映させていく。 ・本庁に配置する統括プロデューサー、高校に新たに配置する魅力化コーディネーター、中学校に配置している教育支援コーディネーター、小学校の地域コーディネーターという三重のコーディネートシステムが有機的に施策展開できる体制を整備する。 ・特に高校では、授業改善や地域課題研究、生徒募集等の各種事業を展開し、市内の高校に進学する生徒を増やす。 ・魅力ある高校づくりにより、将来的に雲南市に住みたいと思う高校生を増やし、将来的な人口増につなげていく。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	<p>28年度実績(28年度に行った主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育魅力化の推進に向けた講演会・研修の開催。 ・先進地視察の実施(福島県、山口県) ・異校種連携(小高、中高)授業の実施。 ・チャレンジ2daysでの高校生ブースの開設。 ・しまね留学合同説明会などでの生徒募集や教育魅力化コーディネーターのリクルート活動の実施。 <p>29年度計画(29年度に計画する主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育魅力化推進会議を設置し、雲南市教育魅力化構想を策定する。 ・本庁に統括プロデューサーを配置し、魅力化推進事業全体のコーディネイトや各コーディネーターの役割分担、業務整理等を行う。 ・大東、三刀屋高校に魅力化コーディネーターを配置し、高校と市教委が一緒になり特色ある学校づくりのための授業改善、地域課題研究、生徒募集等の各種事業を展開する。 					
	② 活動指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
	ア 教育支援コーディネーター数	人			7	7
	イ 高校魅力化コーディネーター数	人			0	2
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
	中学生、高校生	ア 中学校生徒数(3年生)	人数			402	326
		イ 高等学校生徒数	人数			280	289
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	
雲南市の高校で学びたいと思う中学生、将来は雲南市で住みたい・働きたいと思う高校生が増える。	ア 雲南市の高校への進学率	%			60.9	65.0	
	イ 将来雲南市に住みたいと思う高校生の割合	%			63	70	
	ウ 将来雲南市で働きたいと思う高校生の割合	%			50	60	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
<ul style="list-style-type: none"> ・報償費 975千円 ・旅費 422千円 ・消耗品費 69千円 ・印刷製本費 359千円 ・食糧費 12千円 ・通信運搬費 185千円 ・手数料 1千円 ・使用料 15千円 ・負担金 48千円 	事業費	国庫支出金	千円			743	
		県支出金	千円				3,266
		地方債	千円				10,500
		その他	千円			450	
		一般財源	千円			893	3,614
事業費計(A)		千円			2,086	17,380	
人件費	正規職員従事人数	人			1		
	延べ業務時間	時間			250		
	人件費計(B)	千円			992		
トータルコスト(A)+(B)		千円			3,078		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
近年、市内の中学生が市内にある3高校に進学する割合が少なくなっている。	市内にある高校とは、平成27年度に「地域でつなぐ...事業」を一緒に取り組み、高校生が地域の課題について学ぶ仕組みができた。これを基盤に教育魅力化推進事業により、高校と市教委の協働により特色ある学校づくりを進め、市内の高校に進学する生徒を増やす。	地域自主組織から高校生が地域課題研究に取り組むことに対して積極的な姿勢が見られる。

事務事業名	教育魅力化推進事業	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育推進室
-------	-----------	-----	-------	-----	-----------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	平成29年度から大東・三刀屋高校に魅力化コーディネーターが配置され、より地域と密着した活動が期待できる。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	高校と連携を図っていくための類似する事務事業はほかにない。	
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
B 有効性	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	平成29年度から本格実施になるため、現段階では削減余地はないが、事業が継続して進むことで効率的な事業展開が図られるものと期待できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
平成29年度から事業が本格実施になることから、しばらくは事業費をかけながら行っていくべきと考える。継続的に行われることで、効率的な運用が図られるものと期待できる。			平成29年度から配置する魅力化コーディネーターの活動によって、高校の教育がどう変化していくのか数年は見守っていく必要があると考える。ただし、今後の高校のあり方(統廃合も含めて)も検討されていくことが予想されるため、生徒募集については即効性が求められる。したがって、市内高校への進学率には注視する必要がある。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				